

第 24 回日本エンドトキシン・自然免疫研究会にて、下記のミニシンポジウム「エンドトキシン測定法をめぐる最近の進歩と今後の展望」を実施しました。

- 1) 日時: 2018 年 12 月 1 日 (土) 11:00-12:15
- 2) 会場: 関東学院大学・関内メディアセンター
- 3) 座長: 田村弘志 (LPS コンサルティング事務所) 土谷正和 (Charles River Microbial Solutions, USA)
- 4) 演題および演者 (発表 12 分; 質疑応答 3 分)
 - ◇ Masking of endotoxin in biologic drug products: Effects on LAL assay and effective approaches to enable its demasking
Johannes Reich Microcoat Biotechnologie GmbH
 - ◇ Low Endotoxin Recovery (LER)に関する最近のトピックス
土谷正和 Charles River Microbial Solutions, USA
 - ◇ 生物発光を利用した高感度・迅速エンドトキシン測定システムの開発と応用
小田 侑 東亜ディーケーケー株式会社
 - ◇ カプトガニ凝固因子の再構成型リコンビナント LAL 試薬の開発
水村 光 生化学工業(株)中央研究所
 - ◇ 血中エンドトキシン、(1→3)-β-D-グルカンおよびプロカルシトニン—敗血症補助診断マーカーとしての有用性と課題
朝日信雄 富士フイルム和光純薬株式会社

本シンポジウムは、エンドトキシン測定をめぐる最近の研究トピックスと将来展望につき、応用を視点に入れた関係企業の先進的な取り組み、国内外の動向や今後の課題も含めて議論し、情報共有と相互交流を図ることを目的に企画されました。このような企業シンポジウムは研究会としてはじめての試みでしたが、活発な討論を通じて、盛況のうちに終了しました。内容としては、近年、FDA が注視しているエンドトキシンマスキング作用(抗体医薬等バイオ医薬品)と LAL 偽陰性(LER)回避に関する研究の進展と海外事情、新規のエンドトキシン測定法及び遺伝子組換え試薬の開発の現状と展望、敗血症の診断マーカーの有用性と課題に焦点を当てた興味深いものです。とくに LER については、医薬品の安全性に関わる重大な課題であり、欧米の状況を鑑みて、我が国における官民連携の取り組みが待たれます。また、近年、遺伝子組換え技術を用いた次世代 LAL 試薬並びに、高感度かつ迅速な小型エンドトキシン測定装置が市場への参入を果たしましたが、LAL 分野で世界をリードした日本発のテクノロジーとして、医薬品の製造品質管理、再生医療等の種々領域への応用、医療現場への普及が期待されます。